

キャリアプラン早期育成事業について

問 1. 神戸

私からは、本県の女性活躍の取組のうち、「キャリアプラン早期育成事業」について伺いたいと思います。

今月、世界経済フォーラムは今年のジェンダーギャップ指数を公表し、日本の順位は 148 か国中 118 位と昨年度と同じ順位でした。そのうち分野別では経済参画が 112 位、政治参画が 125 位となっており、ジェンダーギャップの改善には、この 2 つの分野を引き上げていくことが課題となります。

特に経済参画においては、女性の採用や職域を拡大し、専門職や技術職として活躍できる女性を増やし、将来的に管理職や経営層を担う人材を育成していくことが大切です。その一方で、今月内閣府が発表した令和 7 年版男女共同参画白書によれば、大学生に占める女子学生の割合のうち、専攻分野全体では 45.9%であるのに対し、理学分野で 28.3%、工学分野では 16.7%に留まってしまっています。

こうした現状は、「男子は理系、女子は文系」といった固定的な意識に基づくものと考えられることから、本県では 2017 年から「理系女子応援事業」として、中高生を対象に企業や大学を取材する事業を実施し、さらに 2021 年からはキャリアプラン早期育成事業として、中学校や高校等へ出前講座を行っていると聞いています。そこでお伺いします。

県が行う「キャリアプラン早期育成事業」とは、具体的にどのような内容であるか伺います。

A1. (男女共同参画推進課長)

本県では、委員お示しのとおり、2021 年度から若い世代が性別にとらわれずに進路や就職先を考えていただけるよう、中高生等を対象とした「キャリアプラン早期育成事業」を実施しておりまして、今年度も、中学校 6 校、高等学校 8 校、専門学校高等課程 1 校の計 15 校において出前講座を実施することとしております。

具体的には、キャリアコンサルタント等によるコーディネートのもと、県が作成した啓発資材を教本として、将来の職業選択の参考となるような講義やグループワークを行うとともに、啓発資材の中にある「ジェン

ダーに関するチェックシート」などを活用し、仕事と家庭における役割分担についても考えていただく機会を設けております。

問 2. 神戸

「キャリアプラン早期育成事業」では、将来のキャリアについて考える機会を提供するだけでなく、仕事と家庭における役割分担意識についても学んでおり、キャリア形成の視点だけではなく、男女共同参画意識についての啓発の機会となっていることがわかりました。そこでお伺いします。

昨年度実施した出前講座を受講した、学生や生徒の反応はどんな様子だったのでしょうか。また、この事業の成果についてどのように受け止めお考になってみえるのか伺います。

A2. (男女共同参画推進課長)

昨年度の出前講座では、全体で 2,683 人の生徒にご参加いただき、生徒からは、「これまでほとんど知らなかった職種について知ることができて、将来の道が広がった気がしました」や「男女が共に働くために必要なこと等、様々なことに気づかされました」などの感想をいただいております。

こうしたことから、参加した生徒の皆さんにとって、将来のキャリアや、固定的な性別役割分担意識について考えていただくきっかけになっており、若い世代の進路・職業選択に関して、一定の効果があったものと認識しております。

問 3. 神戸

「キャリアプラン早期育成事業」に関連して、愛知県では今月 17 日に公益財団法人山田進太郎 D & I 財団と連携して、女子中高生に、科学、技術、工学、数学の 4 分野、いわゆる STEM（ステム）分野の企業に訪問する取組を発表されました。

この事業は「Girls Meet STEM（ガールズ・ミート・ステム）」と題して、株式会社メルカリの創業者で、瀬戸市出身の山田進太郎氏が立ち上げた財団が行っており、昨年度は東京都で実施し、今年度は更に本県を含め、大阪府でも展開すると聞いております。そこでお伺します。

「Girls Meet STEM」事業の具体的内容と、今後、本県としてこの取組にどのように関わっていくのかお聞かせください。

A3. (男女共同参画推進課長)

「Girls Meet STEM」は、2001年にドイツ連邦政府が主導し、STEM分野の女性の大学進学者が大幅に増加する契機となった「Girls' Day (ガールズ デイ)」の取組を参考に、2024年度から山田進太郎 D&I 財団と東京都が連携して取り組んでいる事業であります。

具体的には、建設業や製造業、情報通信業などのSTEM分野の企業を、女子中高生が訪問し職場を見学するとともに、ロールモデルとなる女性社員との座談会に参加することで、STEM分野の面白さや魅力を知ってもらう機会を創出するものです。

今年度は、本県等の呼びかけにより、トヨタ自動車株式会社や株式会社名古屋銀行など県内の12社に参画していただき、7月24日から8月30日の夏休み期間中に順次、開催してまいります。

県としましては、主催者である財団から、「全国47都道府県と連携し、全国規模で長く取り組んでいきたい」との考えを示されていることや、当該事業によりSTEM分野を目指す女性が増加し、女性の職域拡大が図られ、本県の女性活躍促進に資する事業であると判断できることから、今後とも継続して取り組んでまいりたいと考えております。

<要望>神戸

最後に要望いたします。

私が生まれた70年前は、男尊女卑の考えがまだ根強く残っている時代で、私が生まれて女だとわかった瞬間、父はとってもがっかりしたそうです。そこで父はどうしたか。なんと父親は私を男のように育てたのです。そのお陰で、私は小さい頃からそれまで男子がトップ、女子はサブという役しか与えられなかった役を、女子でトップという役を与えられる機会が多くなりました。あの頃でいう男勝り、です。私の意識の中では、男だからできる女だからできない、という意識はなく、一人の人間として能力があるかないか評価されるのだと経験してきました。それが今の私につながっていると思います。

日本のジェンダーギャップ指数がなかなか上がらないのは、「女性は理数系は苦手」というイメージが根強くあるのと、女性の意識の中に植え付けられてしまったこと、そして環境が整っていないことだと思います。能力を持っている女性はたくさんいるはずです。性別で決めつけるのではなく、中高生のうちから能力を伸ばす機会を与え、社会において活躍する女性が増えれば、ジェンダーギャップ指数も上がっていくと思います。女性の意識をより一層高めるためにも、中高生の皆さんに多くの機会・選択肢を与える施策に取り組んでいただくことを要望して質問を終わります。